

活動団体名

くるめ災害支援ネット

通称

ハッシュ#



会長 藤澤 健児さん

活動略歴\*\*\*\*\*発足：2020 年 11 月  
浸水被害の復旧・復興作業に必要な知識とスキルを持つ人材を育成することが大きな目的。被災時に近隣で助け合い、確実な復旧活動ができる地域づくりを目指す。

浸水した家屋の復旧に必要なノウハウが学べる「床下対応講習会」を定期的開催予定。

■災害支援人材育成講座

3月21日（日）10時～15時

場所：総合福祉センター 2階大会議室

詳細はこちら ▽

<https://www.facebook.com/くるめ災害支援ネットハッシュ-102183968387800>

頻発する豪雨災害の被災地に一番求められている支援活動とは何か。久留米市の被災地復旧活動に携わった経験から、課題を解決していこうと発足した団体の藤澤会長にお話を伺いました。

## 水害に事前の支援策を考える

毎年のように起こる浸水被害に、少しでも早い「確実な復旧活動」ができるようにしよう！と、復興支援に携わる人たちの声をきっかけに生まれた、できたての団体です。

近年、自然災害の中でも大雨による水害は、年々深刻な問題となっています。久留米市でも、毎夏のように大雨による水害が発生し、多くの家屋に浸水被害が起きています。

被害にあった方々はもちろん、浸水のリスクが高いと想定されるエリアに住む人たちにとっては、生活を脅かす問題です。また、住んでいる場所に関わらず、だれもが被災者になり得るのが災害の怖さです。

私たちは、そんな「もしも」の災害が起きる前にできる「支援策」はないかと考えました。被災後の復旧は、生活再建の重要な第一歩。その復旧作業をより迅速で確実にするために必要なノウハウを多くの人に知ってもらう場を設けようと活動を始めました。

## コロナ禍での豪雨災害

令和2年7月豪雨では、久留米市でも広い範囲で浸水被害が起きたため、久留米市社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを開設しました。被害が大きい被災地に立ち上げられるもので、支援活動を希望するボランティアの受付や被災者の困りごとの調整などを担います。私も、すぐに駆け付け支援にあたりました。

被災場所では、災害ボランティアセンターで受け付けたボランティアが住民と一緒に復旧活動を行います。新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティアの募集範囲は県内に限定され、作業にあたる人数も制限。また、ボランティアのスキルは様々で、出来ることが限られるため、床下浸水家屋への対応が不十分な状況が見られました。

## 復旧には知識とスキルも必要

浸水した家屋の復旧は、流入した水を取り除く作業から始まります。重要なのは適切な方法で浸水箇所をしっかりと乾燥させること。乾燥が不十分だとカビや腐食の発生などの二次的被害も考えられます。目の届かない床下などはなおさらです。また、衛生環境が不良な状態となった場合、消毒が必要になることもあります。家屋への被害を最小限に止めるためには、早い段階で正しい処置が理想です。

作業に「正しい乾燥の仕方」や「水分を取り除く方法」をプラスすることで、住民が安心できる復旧活動が適うのです。



社協が開催した床下対応講習会の様子

## 模型を使った床下対応講習会

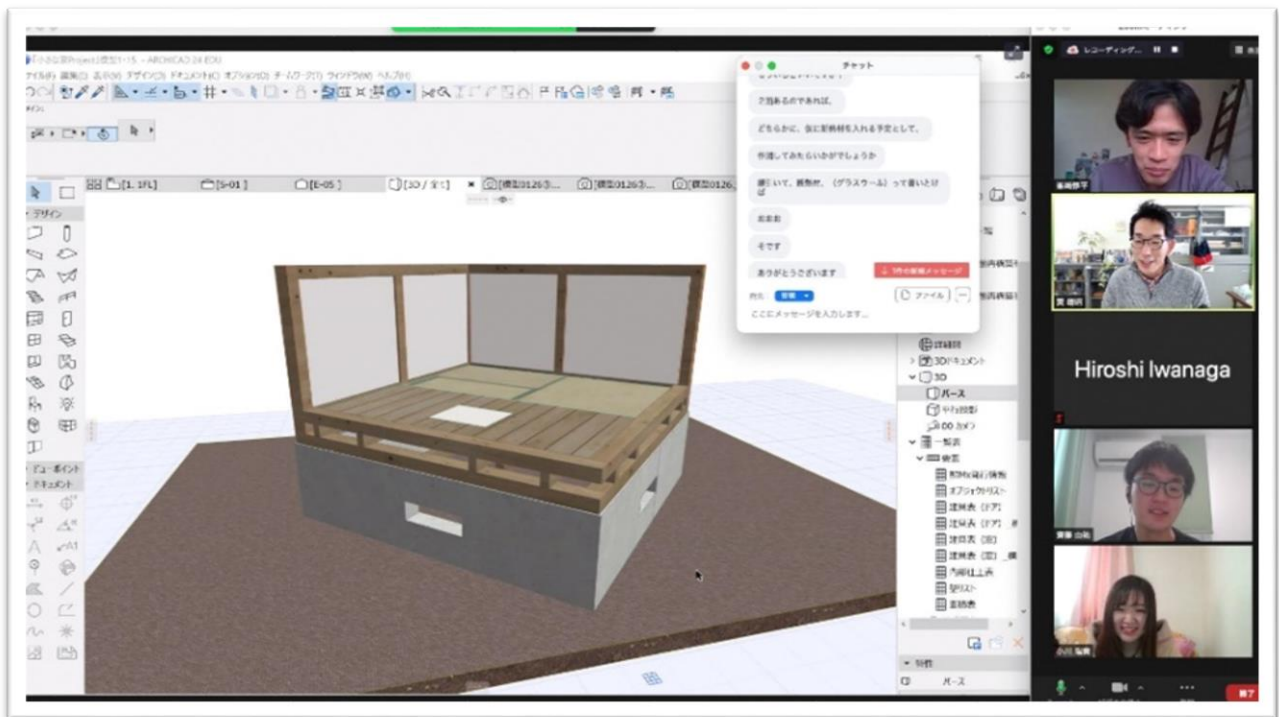
令和2年7月豪雨の後、被害が大きかった大牟田市と久留米市で、実寸大の模型を使った床下講習会が開かれました。少しでも早く適切な処置ができるようにと、支援団体と社会福祉協議会が協力し開催したもので、一般の市民が参加できるものです。

実寸大の模型は、和室と洋室の2種類があり、畳の上げ方から床下の土砂の撤去、水抜き、正しい乾燥の仕方が学べます。実寸大なので床下の構造もとても分かりやすく参加者に好評でした。

## 大学生の知識と力も活躍

久留米市内でも同様の活動を充実させるために、社会福祉協議会が開いた講習会を参考に、自分たち専用の模型を製作中です。この模型づくりには、久留米工業大学の学生が、大学で学んだことを活かせるように、ボランティアで協力してくれています。

オンライン上で意見交換をし、和・洋室どちらも兼ね備えた模型作りに挑戦中です。とても頼もしく、若い世代にも災害支援への関心が広がることもうれしいですね。



オンライン上で意見を出し合う学生と教職員

## みんなで一緒につくる安心できるまち

世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、社会の在り方や、生活スタイルも変えています。いつ起こるか分からない災害に対しても「私たちのまちは私たちが守る」という思いがこれまで以上に必要だと考えさせられました。「また起きてしまうかもしれない・・・」という不安に対して、準備をすることは安心感につながります。専門的知識とスキルを高めてより安全に、そして安心をプラスした住みやすいまちをつくるために、みなさんと一緒に災害支援のネットワークを広げていきたいと思います。